

環境経営レポート

株式会社 医学生物学研究所

2024 年度



(対象期間: 2024 年4月1日 ~ 2025 年3月31日)



MBL MEDICAL & BIOLOGICAL LABORATORIES CO., LTD. (伊那研究所 第二生産棟)



発行日: 2025年6月1日

目 次

項 目	ページ
環境経営方針	2
組織の概要	3
実施体制図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画	6
環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	9
緊急事態対応訓練	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	10
これまでの環境活動の紹介	11

環境経営方針

経営理念

株式会社医学生物学研究所は、深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効利用が人類共通の重要課題と考えております。臨床検査薬・関連製品及び基礎研究用試薬の製造、並びに受託製造等の事業活動における環境負荷の低減や社会に貢献する製品の開発を目指し、行動指針に従い全社一丸となって自主的・積極的に、環境への取り組みを進めてまいります。医薬品の適正使用や患者様のQOL改善に貢献する検査薬の開発を推進し、医療財政の低減化や人的な経済活動の活性化に貢献していきます。

基本方針



1. 次の事に取り組みます。

- ① 電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ② 水使用量の削減
- ③ 廃棄物排出量の削減(3R:廃棄物の発生抑制、再使用、再資源化)
- ④ 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- ⑤ 化学物質使用量の削減

これらについて環境経営目標・環境経営計画を定め、毎年度及び大きな変更時に見直し、環境経営の継続的改善に努めます。

2. 適用される環境関連法規や当社が約束したことを遵守します。

制定日：2017年4月21日

改定日：2023年6月16日

取締役社長 伊藤 浩毅

組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 医学生物学研究所
取締役社長 伊藤 浩毅
- (2) 所在地
本 社 東京都港区芝大門2丁目11番8号 住友不動産芝大門二丁目ビル
伊那研究所 長野県伊那市手良沢岡1063番地103
伊那研究所 第二生産棟 長野県伊那市手良沢岡1018番地1
筑波研究所 茨城県つくば市御幸が丘25 JSR筑波研究所
配送センター 千葉県印西市鹿黒南二丁目2グッドマンビジネスパーク Stage3 North3階
福岡営業所 福岡県福岡市中央区天神一丁目9-17 福岡天神フコク生命ビル15階
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 伊那研究所管理部部長岡田 邦宏
担当者 伊那研究所管理部 TEL:0265-76-1777(代表)
- (4) 事業内容
伊那研究所: 臨床検査薬、関連製品、並びに基礎研究用試薬の製造
筑波研究所: 臨床検査薬の研究開発

URL:<https://www.mbl.co.jp/>



←MBL
ホームページはこちら

- (5) 事業年度 4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 株式会社 医学生物学研究所 (サイト認証)

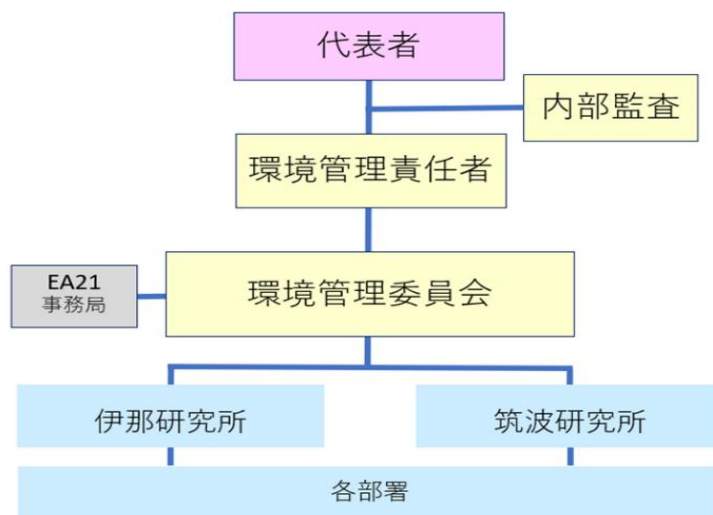
対象事業所: 伊那研究所
伊那研究所 第二生産棟
筑波研究所

対象外: 本 社 ・ 配送センター ・ 福岡営業所

活 動: 体外診断用医薬品の研究開発及び製造

実施体制図及び役割・責任・権限表

更新日：2021年9月8日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの運用に必要な人、設備、資金、情報等の準備 - 環境管理責任者を任命 - 環境経営方針の策定、見直し及び全従業員へ周知 - 環境経営目標及び環境経営計画承認 - 代表者による全体の評価と見直し、指示 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築運営、維持管理 - 環境関連法規などの取りまとめ - 環境経営計画の進捗状況の確認とその評価 - 全体の見直しに必要な情報の代表者への報告 - 環境経営レポートの確認
部門責任者	- 環境経営方針及び各自の役割、責任及び権限の自部門従業員への周知・徹底 - 環境経営目標並びに環境経営計画に従った取組の実施と、必要な記録の作成、及び報告 - 自部門に関連する問題点の発見、是正、予防処置の実施
EA21事務局	- 環境管理責任者及び部門責任者の補佐、環境管理委員会の事務局 - 環境関連法規等取りまとめ表／遵守評価記録の作成 - 環境経営目標、環境経営計画原案の作成 - 環境経営計画の実績集計 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境経営レポート作成と公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
環境管理委員会	- 環境経営目標及び環境経営計画の審議 - 環境活動の実績の確認と評価
環境内部監査事務局	- 内部監査の計画 - 内部監査の実施と報告
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性の自覚 - 環境活動への自主的・積極的な参加

主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	1,253,951	1,237,923	1,195,949
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	10,496	9,890	11,608
産業廃棄物排出量	kg	43,160	35,162	32,482
水使用量	m ³	8,674	4,670	4,083
※電力の二酸化炭素排出係数(調整後)		0.470	0.470	0.470
		中部電力ミライズ 東京電力	中部電力ミライズ 東京電力	中部電力ミライズ 東京電力

kg-CO₂/kWh

環境経営目標及びその実績

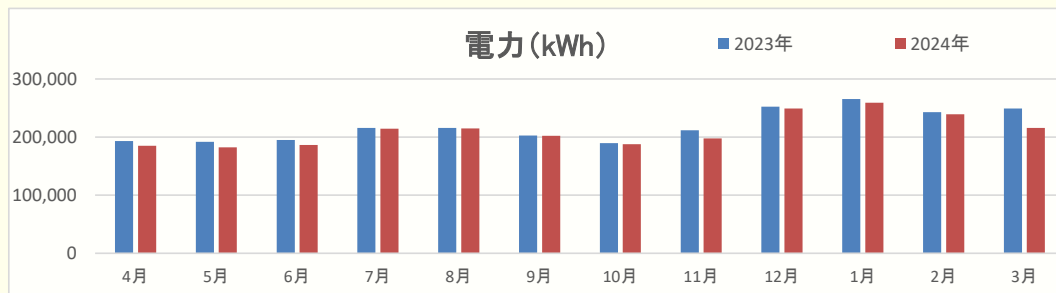
年 度		2023年	2024年		2025年	2026年
項 目		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kWh	2,624,264	2,650,507	2,533,882	○	2,676,749
	基準年度比		101%	97%		102%
売上高原単位	kWh/千円	0.085	0.085	0.342	×	0.086
	kg-CO ₂	1,233,404	1,245,738	1,190,925	○	1,258,072
	基準年度比		101%	97%		102%
原単位	m ³ /千円	0.003	0.003	0.000	○	0.003
自動車燃料による二酸化炭素削減(伊那のみ)	kg-CO ₂	4,519	4,565	5,024	×	4,610
	基準年度比		101%	111%		102%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	1,237,923	1,250,303	1,195,949		1,262,682
一般廃棄物の削減(伊那のみ)	kg	9,890	9,989	11,608	×	10,088
	基準年度比		101%	117%		102%
産業廃棄物の削減	kg	35,162	35,513	32,482	○	35,865
	基準年度比		101%	92%		102%
水道水の削減	m ³	1,564	1,580	1,577	○	1,595
	基準年度比		101%	101%		102%
地下水の削減	m ³	3,106	3,137	2,506	○	3,168
	基準年度比		101%	81%		102%
有機溶剤の使用量削減(伊那のみ)	kg	3,050	3,081	2,245	○	3,111
	基準年度比		101%	74%		102%
環境に配慮した製品・サービスへの取り組み	行動目標(次項による)					
課題を解決しチャンスを活かす取組	行動目標(次項による)					

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成

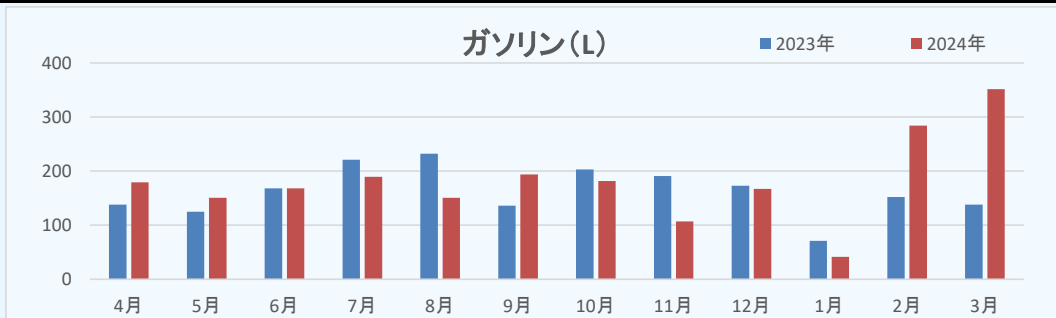
活動: ○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	年間を通して順調な推移であった。24年度はエアコン機器の更新、照明のLED化をすすめた。25年度は、これを背景とした数値目標と、適度な節約啓発を続け、目標値に収まるよう管理していきたい。
原単位目標	×	
・空調温度の設定管理(各職場の作業環境により設定。GMP等の特定エリアは除く)	○	
・不在時と休憩時の消灯実施	○	
・照明のLED化の推進	○	
・空調等管理の適正化(第二生産棟)	○	
・間引き照明の実施	○	



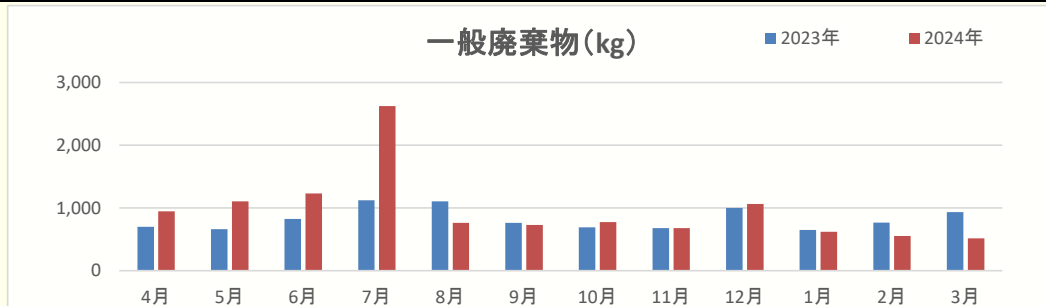
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	192,968	191,887	194,884	215,761	215,560	202,665	189,481	211,541	252,218	265,292	242,687	249,320
2024年	185,233	182,404	186,299	214,525	214,670	202,315	187,588	197,656	249,189	259,267	239,151	215,585

自動車燃料による二酸化炭素削減(伊那のみ)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【評価】月変動はあり必要不可欠な使用量という認識 【次年度の取組】適切な社有車使用を確認していく
・社有車のハイブリッド化/低燃費車化の推進	○	
・エコモード運転の励行	○	
・公共機関を利用した出張の励行	○	
・出張の必要性和吟味とWeb会議の活用	○	



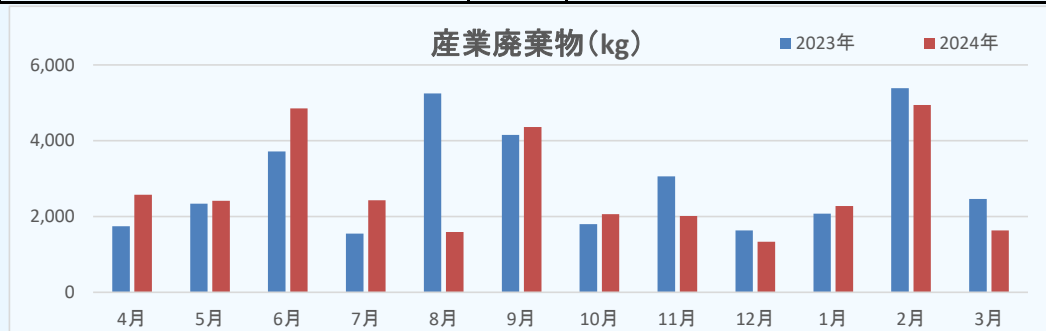
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	138	125	168	221	232	136	203	191	173	71	152	138
2024年	179	151	168	190	151	194	182	107	167	42	284	351

一般廃棄物の削減(伊那のみ)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【評価】この度の集計で一般廃棄物の増加傾向が見られたため、改善の一手としてより細かな分析実施へとすすめたい
・ペーパーレス会議の推進	○	【次年度の取組】リサイクル対象品のリサイクル化などより細かな分析と管理を行う。
・分別の徹底による古紙等のリサイクル化の推進	○	
・書類の電子化の推進	○	
・整理、整頓、清掃、清潔活動の推進	○	



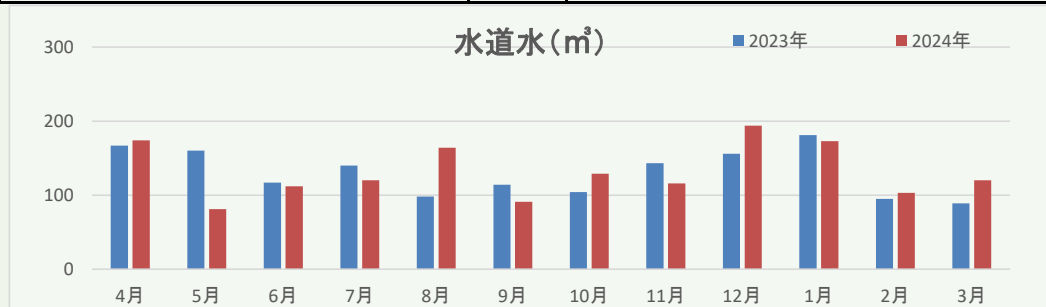
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	699	660	827	1,123	1,105	761	691	678	999	648	767	932
2024年	947	1,104	1,233	2,625	764	729	773	679	1,064	621	555	515

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【評価】事業内容の変更などがあり廃棄物も増えた傾向があり
・工程廃棄品の削減(不良品発生抑制)	○	【次年度の取組】製造現場の状況を把握しながら管理していく
・在庫品廃棄の削減	○	
・実験廃棄品の削減	○	



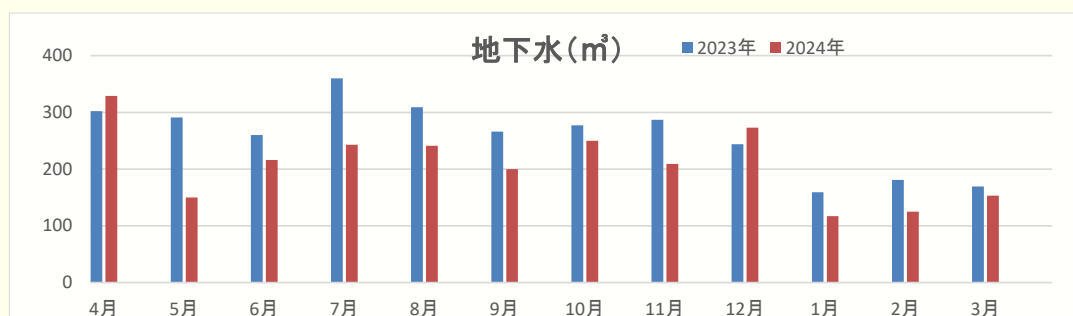
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	1,741	2,340	3,718	1,546	5,249	4,154	1,800	3,057	1,634	2,074	5,386	2,463
2024年	2,572	2,412	4,856	2,430	1,593	4,361	2,059	2,013	1,334	2,274	4,945	1,635

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【評価】総じて良好
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	【次年度の取組】適切な節約の啓発を継続
・計画的安定生産による適正使用量の維持	○	
・計画的実験による適正使用量の維持	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	167	160	117	140	98	114	104	143	156	181	95	89
2024年	174	81	112	120	164	91	129	116	194	173	103	120

地下水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【評価】総じて良好
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	【次年度の取組】適切な節約の啓発を継続
・計画的安定生産による適正使用量の維持	○	
・計画的実験による適正使用量の維持	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	302	291	260	360	309	266	277	287	244	159	181	170
2024年	329	150	216	243	241	200	250	209	273	117	125	153

有機溶剤の使用量削減(伊那のみ)	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【評価】安全会議安全衛生委員会での薬品マネジメントが現場での管理につながっている
・計画的安定生産による適正使用量の維持	○	【次年度の取組】24年度の活動を継承



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2023年	263	387	377	245	140	205	241	210	197	250	234	302
2024年	229	256	249	306	163	161	203	161	129	145	136	107

環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用法令		遵法 評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)		○
毒物及び劇物取締法(毒劇法)		○
麻薬及び向精神薬取締法		○
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)		○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(化管法)		○
有機溶剤中毒予防規則(有機則)(労働安全衛生法の有機溶剤対応)		○
特定化学物質障害予防規則(特化則)		○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法) 第一種特定製品の管理者の判断の基準(告示)		○
消防法 危険物の規制に関する政令(危政令)		○
下水道法 伊那市下水道条例		○
水質汚濁防止法(水濁法) 長野県 良好な生活環境の保全に関する条例(県 生活環境保全条例) (旧 長野県公害防止条例)		○
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律(公害防止組織整備法)		○
使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律(小型家電リサイクル法)		○
特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)		○
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)		○
手良地区農業集落排水処理施設への接続に係る協定書(伊那市協定)		○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要請等

2024年4月～2025年3月の期間で環境に関する苦情や要請はなかった。

緊急事態対応の試行・訓練



緊急事態の想定: 火災の発生	
■実施日: 2024年9月19日	■実施場所: 伊那研究所新棟・研究棟・第一生産棟・第二生産棟・管理棟
■参加者: 全員参加で避難訓練を実施	
■実施内容: ☒ 通報訓練 ☒ 消火訓練 ☒ 避難訓練	
■評価: 手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし ・地震対応⇒責任者への確認⇒館内放送・非常用ベル鳴動⇒避難・避難誘導⇒集合・確認・本部への報告の一連の行動の確認 ・新棟・研究棟・第一生産棟・第二生産棟: 応急救護訓練 ・参加者防災訓練新棟・研究棟・第一生産棟(73)+第二生産棟(50)+管理棟(19)=計142名 避難途中に余震が発生した際は、その場で頭を守る、又は頭回りに物が落ちてこない付近の場所に隠れる等の安全確保を取る。	
■実施状況の様子	
 心肺蘇生法の体験実施の様子	 管理棟避難訓練の様子
 第二生産棟避難訓練の様子	 第二生産棟避難訓練の様子

代表者による全体の評価と見直し・指示

概ね目標を達成しているが、CO2削減、可燃物削減など一部の管理項目で未達となった。経済活動の増加が原因であり、25年度については経済活動に伴う適正な目標設定を実施したい。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介

地域貢献活動

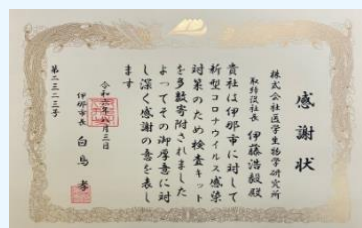
●手良小学校廃品回収協力

伊那研究所では、「手良小学校PTA資源回収」に参加しました。社員のみなさんのご協力をいただき多くの資源ごみ(アルミ缶・新聞紙)を回収(排出)することができました。



●新型コロナウイルス抗原検査キットの寄贈

MBLは伊那市へ2万キット、G&Gサイエンスは福島市へ2万キットの抗原検査キットを寄贈しました。令和5年秋に続き3回目となります。



●野鳥保護活動～ブッポウソウ観察会

「ブッポウソウ里の会」が開催するブッポウソウ観察会に参加しました。MBLの参加者たちはひな鳥に餌をやるブッポウソウを観察することができました。



●伊那まつり～翌日清掃活動

8/31に開催された伊那まつりの市民踊りに参加しました。その翌朝、伊那市役所主催の清掃活動に参加し、伊那まつりで打ち上げられた花火のゴミを回収しました。



●タカトオコヒガンザクラ植樹式

伊那市よりタカトオコヒガンザクラ4本をご寄贈いただき、それを記念し植樹式を執り行いました。伊那市の一員として、市の象徴である「タカトオコヒガンザクラ」を大切に生育し、桜の会などのイベントを通して地域の皆様との交流を深めながら、今後も地域との共生と発展に貢献してまいります。



●伊那市で出前授業の実施

伊那市立手良小学校で、5年生18名を対象とした出前授業を行いました。会社の説明、顕微鏡での細胞観察、検査キットを用いての実習をおこない、楽しく学んでい



●フードバンクへ安心米寄贈

災害時に備えた備蓄品の定期的な見直しの一環として、会社の災害用備蓄品である「安心米」405食分を伊那市社会福祉協議会のフードバンクへ寄贈しました。



設備更新

●省エネ設備に更新

伊那研究所では、エアコンの更新を順次進めています。



●施設内照明のLED化

2024年度は非常用照明器具のLED化を実施しました。人感センサーにより点灯時間が制限され、節電効果が期待されます。

